

第30回交流会を開催！！

9月8日～9日、群馬県伊香保温泉郷にて東日本工務協交流会を開催しました。
各地協から職場報告を受け、安全問題や工務協

交流会は、15時に開会し高崎工務協の萩原さんを座長に選出し、出羽議長の挨拶、来賓として東日本本部武田書記長、高崎地本五十嵐書記長から挨拶をいただき、清水事務長より議題の提起を受けて討論にはいりました。

二日間を通し、25名が参加しました。

各地協報告

JRの若手3名が大曲花火大会のレクに参加。保守用車マニュアルの点検項目は、20年前のものを未だに使っている。ワンフレームクレーンの点検自主検査が労安法に違反している。(仙台)
線閉・保守用車の事象が多発。JR土木では夫婦は同じ職場に置かないルールがあり夫が退職した。本体組合員の交流会を開催。来年の定期委員会を最後に地協は休止を予定。(盛岡)

幹線統括センターでは、モニタリング車が導入される。車両センターを丸投げする方向。(長野)
未加入者に交流会への参加を呼びかけたがことわられた。

「本体エルダーは見張と線閉に従事、担務は若手が行っている。JR建築では夫婦で同じ職場で働いている。国労1人となり組合掲示板の撤去を勤労から地本へ連絡があった。(千葉)
保守用車のブレーキストロー調整点検について、明確なマニュアルは見ることが無かった。新

病欠、若手同士で相談ごとができる状況。(高崎)
若年退職のキツカケは、賃金面の待遇による事を会社は認識している。分会諸要求アンケートを取り組み団交を開催して行く。社員代表者選挙に立候補し、国労に期待する票を獲得した。(建設)

1日目の討論を終えて、伊香保温泉で日頃の疲れを取り、懇親会では、自己紹介と近況報告を行い、恒例の各地協より持ち寄った

若手と話し合いながら職場の要求作りを取組んでいる。
ワンマン運転の提案がされたが、異常時に対応できる要員がない。(横浜)
短日数は、無給の見直しを求め。6月から塩飴を要求し、8月下旬に届いた。元職場で国労が関わった若手はほぼ異動している。若手は組合費の負担と役員を担うことに抵抗がある。(東京)
保線から警備会社、今は清掃会社で働くエルダー組合員の報告を代読。社員代表者選挙に2職場で立候補し、組合員数を上回る投票があった。沿線の草木は車両限界を超えている。巡回時には鎌や鋸を持って行ったが、技術継承がされていないのが残念。(千葉)
残り1年足らずで鉄道人生が終わる。プロパー社員の指導をし



元東日本工務協議長の湯浅さんより『高崎ダルマ』を頂きました。

て行きたい。2名の国労の若手を支えて行く。(仙台)
【東日本本部書記長感想】
「休日数が少ない」「エントリ制度の拡充」「功労金の計算は月単位に」「退職時の病欠はJRに戻して180日にすべき」等、申1号でG会社の労働条件改善を求めて行く。
二日間の交流会は勉強になった。

【議長集約】

新幹線における保線業務及び組織の見直しの提案、保守用車の点検・マニュアル問題について要求を上げて頂きたい。安全問題・職場改善は、粘り強く要求し続け行くことが重要。次回交流会に参加者を出せない地協もあるが、各地協で参加者を呼びかけて頂きたい。工務協と電気協の若手組合員の交流の場を企画したい。
残された期間を若手世代と共に工務協運動の継承に繋げて行く。
交流会を受け入れて頂いた、高崎地協の皆さんにお礼申し上げます。

